

スタートライン

下呂中学校 三年 田口 心陽

爽やかな空にびったりなファンファーレ、テープカットを合図に鳴り響く拍手。先日、私の中学校にエコステーションが開設されました。

SDGs。エコステーションの開設を機に今まで以上に耳にすることが多くなったこの言葉。SDGsとは、多くの課題に直面している今、人類がこの地球で暮らし続けていくために 2030 年までに達成すべき目標のことをいいます。以前の私は、『SDGs=環境を綺麗にすること』そう捉えていました。私に海や森を守るなんてことはできないけど、ゴミ拾いなら…それくらいに思っていたのです。

エコステーションが身近になったことで我が家ではゴミの分別を積極的に行うようになりました。父や母もティッシュの箱のぺらぺらの部分をとって箱をつぶしたり、これまで捨てていたお菓子の箱も捨てずに集めたりしています。ペットボトルのキャップは、いつも母が、外して分別してくれていたことも初めて知り、何気なく買っていたお菓子も「この袋はリサイクルできます」そんな表示が目にとまるようになりました。

ごみについての関心をもった私は、環境省のホームページを見てみることにしました。日本のゴミの総排出量は一年間で 4095 万トンだそうです。多いと感じましたが、年々減少していることも知り、なんとなく、日本もSDGsに向き合っているような気がして嬉しくなりました。

しかし、同時に「本当にそうなのか。」と疑問ももちました。それは、生活している中でごみを見かけることが何度もあったからです。私の住んでいる地域では、年に三・四回ほどクリーン活動が行われていて、毎回家族と参加しています。ゴミ袋片手にみんなで街を歩き、道端に落ちているたばこやお菓子のゴミなどを拾っていきます。人目につかないところに空き缶が隠されていたこともありました。参加し始めたころより落ちているゴミの量は減っていると感じますが、やはり、なくならないのが現状です。「SDGs=環境をきれいにすること」だと思っていた私ですが、SDGsとは何なのだろうと考えるようになりました。

そんなことを思いながら参加した修学旅行。初めて行った広島市の平和記念公園の道はとても綺麗でした。「どうしてこんなにも綺麗なのだろう。」しばらくしてその理由が分かりました。平和記念公園にある記念碑を見て回っていたときの事です。私たちに説明をしてくれる碑めぐりのガイドさんが、落ちていたゴミをさっと拾っているのを目にしました。戦争の悲惨さや当時の苦しさを語り継いでくれるガイドさん。ごみを拾うその姿の裏には、伝え続けていこう、「誰かが」ではなく、自分たちが守っていこう、そんな強い思いを感じました。だから碑めぐりで通ったあの道は美しく、その美しさが「平和の子の像」や「平和の灯」などをもっともっと輝かせているのだと思いました。私たちが住んでいる下呂の街にも多くの方が訪れます。素敵な観光地がたくさんあるからこそ、その魅力がたっぷり伝わるような美しい街で在りたいと思いました。

それまで「SDGs=環境を綺麗にすること」と、どこか遠い大きなものだと思っていましたが、私のこの考え方は少し違うような気がしてきました。

エコステーションの利用やクリーン活動への参加、自分自身が体験したからこそ、資源を大切にしたい、美しい街でいたい、という思いが生まれ、身近なことに感じられました。やはり、自分の身近なことと考えているから、行動したりそこから何かを感じたりすることができるのだと思います。

今の私は、SDGsの考え方の全てを理解することはできていません。しかし、SDGs、そのスタートは、「自分事として向き合ってみる」という考え方なのではないかと思っています。きっと、もっと奥が深くて広い考え方があるのだと思いますが、それはこれから探っていこうと思います。これまでのようにまずは、自分が知る、やってみる、を大切にしたい。